

# 「困っている人に届けたい」

## 本派支援センター 支援物資を能登の寺院へ

### 能登半島地震

金沢別院（金沢市笠井町2-47）に1月8日に設置された「浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター」は、被災寺院などの要望を聞き、全国の本派関係者から寄せられた支援物資を寺院や避難所などに届けている。1月下旬の時点では、ライフラインの復旧が見通せず、避難生活を送る人が特に集中する石川県内を中心に支援している。1月17日、同センターの活動に同行した。

センターがある金沢別院 分けして集積されていた。の対面所。ブルーシートを 被災寺院や自治体、支援 敷いた室内には全国から寄 団体などへ連絡を取り、活 せられた物資が、水や食品、 動の調整を行う「コーディネート 日用品などの種類ごとに仕 抜かれ、このほか「緊急支 援隊」として、宗派・本山

地震に加えて津波の被害も受けた石川県能登町の法栄寺。組長として鳳珠組内寺院の声を取りまとめる弘崎信正住職(右)から要望を聞く本派支援センターのスタッフ(=1月18日)



から職員数人を常時派遣して物資の運搬などにあたっている。17日午前、川井周裕センター長（社会部課長）が、能登町・法栄寺の弘崎信正住職（70）の電話を受けていた。石川県鳳珠組の組事務所として同町と穴水町、珠洲市にある組内9カ寺の状況や要望を取りまとめている。全寺院で依然として断水が続いており、特に生活用水、簡易トイレ、体ふきシートなどの要望が多いという。

要望を聞き取ると、直ちに物資を寺院ごとに分けて段ボール箱に詰め、てくてくは別々の箱へ。レトルト食品も主菜に偏らないよう、レンコンのきんぴらや野菜の煮物など副菜にも気を配る。水と灯油はポリタンクの色を分けて準備した。この日、要望のあった物資を現地に運び込むのは翌日。能登半島北部の被災地域へはすでに各所で道路が損壊しており、金沢市内からは片道数時間を要する。スタッフは「困っている人に早く届けたい」という思いを募らせながら、作業にあたっていた。

18日は午前7時過ぎにセンターを出発し、能登町と珠洲市の4カ寺に物資を届けた。

庫裏や仮設建物に物資を運び込みながら、スタッフは「何か困っていることはないですか。今後必要なものは」と任職らに声をかけ

る。津波で庫裏が床上浸水などについて情報を共有した法栄寺では、川井センター長が「雑巾も置いておきますね」と伝えると、弘美坊住が「助かります」と笑顔を見せた。

同町・浄土寺では若山峰人住職（57）が「大変な状況の中を届けていただき、物資とともに宗門の皆さんの温かなお気持ちも届いたたい。本堂は柱がゆがんで立ち入れない。復興には時間がかかると思うが、組内の住職方や門徒と力を合わせて前を向いて歩んでいきたい」と話した。

また、現地緊急災害対策本部を務める同教区の中村祐順事務所長は「被災寺院は、門徒も多く被災され、運営にさまざまな課題を抱えておられる。お念仏の仲間が希望を持って前に進めるよう、今後とも支援をお願いしたい」と話した。



必要とされる支援物資など最新の情報は、金沢別院ホームページ、もしくはX（旧ツイッター）、インスタグラムなどから見る事ができる。

問い合わせは同センター ☎090(2566)5325、または090(2163)53625。

### 令和6年能登半島地震 災害義援金

**【募金の名称】**  
浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金  
「令和6年能登半島地震 災害義援金」

**【受付口座番号】**  
・郵便振替 01000-4-69957  
加入者名 たすけあい募金

・銀行振込  
銀行 ゆうちょ銀行  
店名 一〇九（イチゼロキュウ）店  
番号 当座 0069957  
名義 たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」と明記し、住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。〒760-8501 金沢市・社会部〈災害対策担当〉☎075(371)5181。

## 広がる支援の輪

### 「私たちは動ける」 高岡教区・若手僧侶の会



液状化地域の泥出しを手伝う僧侶たち(=1月5日)

高岡教区(富山県西部)でも、水見市など能登半島にある地域を中心に、地震で大きな被害を受けている。このことから同教区若手僧侶の会・鸞翔会(村上昂文会長、会員30人)は、戸水をポリタンクに詰めて持参した高岡市・長光寺衆徒の織田朋希さん(29)は「自坊も仏具や墓石が倒れ

1月4日には会員ら40人余りが持ち寄った水2500リットルをトラック、除菌シートなどをトラックに積み、断水する水見市の2カ寺に届けた。自坊の井戸水をポリタンクに詰めて持参した高岡市・長光寺衆徒の織田朋希さん(29)は「自坊も仏具や墓石が倒れ

目の前で焼き上がった熱々のたこ焼きを囲みながら、「久しぶりに食事らしい食事をした」「温かい」とうれしそうに話していた。笑顔が広がった。

八幡代表(30)は「子ども食堂で縁のある方が県内外からたくさん物資や活動資金を寄せてくださり、有り難い」と話す一方、「孤立状態は解消されつつあるが、支援が十分でない地域はまだ少なくない。インフラの復旧に時間がかかり、避難所生活の衛生面や、いつまでこの状況が続くかわからないことへのストレスも心配。現地の声や必要な支援をフェイスブックやインスタグラムで発信していく。ぜひ、皆さんのお力をかかっていたきたい」と話している。

### 「皆さんの力を」 子ども食堂「えんまん」



避難所に弁当を届けるスタッフ(=1月20日)

吉崎別院(福井県あわら市)など全国7カ所で子ども食堂を開く一般社団法人「えんまん」(八幡真衣代表)は、石川県小松市・本光寺表川石川小松市・本光寺(衆徒)は、地震発生翌日の1月2日から被災地域に物資を届ける活動を開始した。スタッフ10人を中心に活動。京都市内のNGO「日

本国民間協力会」と連携して連日、輪島市内の孤立集落や行政の支援が行き届きにくい避難所を訪ねて、弁当などの食料や日用品、水などを届けている。

12日には現地の人の要望を受けて、避難所となったスタッフ10人の小学校でたこ焼きの炊き出しを行った。